



「神の栄光は弱さの中に～死者の月 11月に思うこと～」

2025年10月26日

にっぽんせいこうかい はちのへせい きょうかい
日本聖公会八戸聖ルカ教会

かんり ぼくし しきい こしやま てつや
管理牧師 司祭 ステパノ 越山 哲也

皆さんは行ってみたい場所はどこですかと質問されたらどこに行ってみたいですか。私は「長崎」と「鹿児島」に行ってみたいです。どちらもまだ一度も行ったことがない場所です。

理由は、長崎は日本にキリスト教が初めて伝わった場所であり、多くの殉教の歴史があること、その歴史を受け継ぎ今もなお彼らの信仰が紡がれていること、さらに長崎の原爆の歴史を実際に自分の足で現地に立って、見て、感じ、考えてみたいからです。

鹿児島はお茶で有名な知覧にある「知覧特攻平和会館」を見学してみたいからです。太平洋戦争末期に国策として行われた特攻作戦によって犠牲となった若者たちの手記が残されているそうです。

彼らの多くは、愛する大切な家族を思い、国ためではなく、本当は「お母さん」と叫んで亡くなっていったんだよとある方から教えて頂いた言葉が心に残っています。私は「死」を美談にしてはいけなさと心にいつも刻んでいます。

殉教者、原爆、戦争、特攻隊に関する本や情報はたくさんあり、それらを通して学ぶことはできます。ただ、やはり一度は自分の目で現地に立ってみたいという思いは強く私の中にあります。

今年も諸聖徒日(11月1日)と諸魂日(11月2日)を迎えます。そして11月は「死者の月」と呼ばれます。

盛岡にある岩手県立美術館には彫刻家の船越保武さんの作品が展示されており、代表作で1962年に長崎で制作された「二十六聖人殉教者像」をモチーフにした作品が公開されています。皆さんは見たことがありますか。私はまだ見ていないので機会を見て行ってみます。

先日の聖書の親しむ会で読んだ箇所の中にペテロがどのような死に方で、神の栄光を現すことになるかを示そうとしてイエスが言われた言葉を分かった合いました。

「行きたくない所へ連れて行かれる」

(ヨハネによる福音書21章18節)

この御言葉は、ペテロが主に従おうと決心しながらも抵抗して逃げてきたけれども最終的には神の栄光のためにローマで逆さ十字の磔で殉教していくことを暗示していると言われている箇所です。

「神の栄光」のために、主イエスもペテロもそして主の弟子たち、殉教者も死んでいきました。しかし、聖書が語る真実はその死までには葛藤、出来れば回避したいという記述も記されています。長崎の殉教者、特攻作戦で亡くなった若者もどんな気持ちだったのだろうかと思います。それを知ることは出来ませんが想像することは出来ます。だからこそ美談ではなく、現地に立って想像してみたいのです。神の栄光を現すため、み国の到来を待ち望み、生きた先人たち、そして葛藤、死への恐怖を吐露して亡くなっていった人たち一人一人の尊い人生を覚えたいと思います。

